

カウカウ情報2025

10月市



光都農業改良普及センター

10月8日に行われましたセリ市全体の平均価格は、去勢が105万8千円、雌が90万4千円でした。

普及センター調べ（税込価格）
（雄を除くため、JA公表数値とは異なります）

地域	去勢			雌			総計	
	頭数	DG	平均価格	頭数	DG	平均価格	頭数	平均価格
赤 佐	2	0.890	1,034,550	2	0.885	895,950	4	965,250
丹波篠山	2	0.934	1,135,200	3	0.798	818,400	5	945,120
丹 波	19	0.970	1,081,068	12	0.847	847,367	31	990,603
朝 来	12	0.960	1,096,517	2	0.869	886,050	14	1,066,450
播 磨	23	0.905	1,013,770	18	0.801	754,783	41	900,068
美方郡	55	0.954	1,032,440	57	0.864	917,323	112	973,854
豊 岡	17	0.961	1,081,365	10	0.840	848,760	27	995,215
養 父	28	0.990	1,135,396	18	0.873	1,143,572	46	1,138,596
摂津・神戸	7	0.956	1,031,643	5	0.785	732,160	12	906,858
県北C	4	0.788	798,050	—	—	—	4	798,050
市場全体	169	0.951	1,057,556	127	0.849	903,888	296	991,624

10月市種雄牛ランキング

順位	種雄牛	去勢			雌			総計	
		頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均価格
1	丸若土井	26	0.989	1,152,758	21	0.863	1,047,410	47	1,105,687
2	山伸土井	27	1.006	1,066,104	10	0.917	963,930	37	1,038,489
3	忠味土井	16	0.965	1,100,206	18	0.842	891,611	34	989,774
	総計	169	0.951	1,057,556	127	0.849	903,888	296	991,624
4	照和土井	8	0.967	1,034,688	4	0.837	880,000	12	983,125
5	丸春土井	8	0.956	1,091,063	8	0.835	846,450	16	968,756
6	悠森土井	5	1.030	1,105,060	9	0.871	828,300	14	927,143
7	丸彩土井	19	0.947	958,911	18	0.831	851,400	37	906,608
8	忠正土井	6	0.954	981,200	7	0.813	749,886	13	856,646

価格は税込み (10頭以上の出荷があった種雄牛のみ記載)

ランキング種雄牛の育種価

	種雄牛	枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	皮下脂肪厚	歩留	脂肪交雑
1	丸若土井	B	A+	A++	A+	A++	A+
2	山伸土井	A	A+ → A++	D	A+	A+	A
3	忠味土井	B	A+	A	C	A+	A+
4	照和土井	A++	A	C	B	B	B
5	丸春土井	C	B	C	B	B	A+
6	悠森土井	B → C	B → C	B	A → B	B → C	A+ → A++
7	丸彩土井	B	B	A++	C	A	C
8	忠正土井	C	B	A+ → A	C	B	B



バックナンバー
はここから

北部農業技術センター提供 (育種価評価は令和7年4月現在)

サシバ工対策続けていますか？

サシバ工はまだまだ活動します

■ はじめに

猛暑が和らぎ、朝晩は涼しくなってやっと秋の匂いがしてきました。猛暑は人間だけでなく、虫も弱らせるようで、人にとってストレスである蚊も、最近よく見かけるようになりました。牛にとってストレスであるサシバ工も、まだまだ活発な時期です。そこで今回は、サシバ工が及ぼす影響と涼しくなった今できる対策についてまとめていきます。

■ サシバ工について

牛が皮膚を震わせ、尻尾を使ってサシバ工を追い払っている様子から、「イライラしているだろうなあ…」というのは感じ取れるかと思います。

そもそもサシバ工は、吸血性があり、特に牛の血液を好みます。蚊や虻はメスしか吸血しませんが、サシバ工はオスとメスどちらも吸血します。また、吸血を始めると、邪魔されない限り1分～5分間吸血をし続けます。さらに、繁殖能力が高く、1匹から最大600個もの卵を産みます。産卵から羽化まで15日～31日で成虫となります。成虫は、5月から7月前半にかけて増加し、その後、真夏は活動が停滞します。そして、8月後半から再び増加し、11月ころまで活発に活動します。また、サシバ工は、朝と夕に吸血し、季節によって時間帯が変わります。気温が高い時間帯に活動するため、夏の間は朝早くから、春と秋は気温が上昇する昼に近い時間帯に吸血します。

このように、サシバ工は夏だけでなく、晩秋までまだまだ活動し、牛にストレスを与え、**そのストレスは牛の増体率へ影響することが認められています。**

■ サシバ工対策

① 発生源の除去

上記で述べた通り、サシバ工は600個もの卵からたった1か月で成虫となります。幼虫は、栄養が豊富で水分が多く、温度が高いところ、つまり糞や飼料中、切り返していない堆肥舎で育ちます。そのため、サシバ工を減らす方法は、何よりも**発生源を減らすことが重要です**。1週間以内の間隔で除糞清掃するところには発生量がかなり少なくなります。

薬剤散布よりも低コストであるため、できるところは掃除をしてサシバ工の発生源を除去しましょう。特に見落としがちな、柵の縁石の上、柱の根元、ウォーターカップ付近はサシバ工に好まれるので注意しましょう。

② 殺虫剤の使用

幼虫対策として成虫ではなく、幼虫への殺虫剤である、IGR 剤があります。サシバ工は孵化後約10日間でサナギとなります。この期間に使用することで、成虫になるサシバ工を抑えるものですが、散布時期でおすすめの時期があり、その時期が気温の低い時期です。卵から成虫までの発育期間が気温により異なり、気温が低い時期の方が発育期間は長く、多くの幼虫やサナギを殺すことができます。一方、気温の高い時期は生育が早く、30度以上の気温ではたった1週間で成虫となります。

IGR 剤を散布する場合は、涼しい時期（春や秋）を中心に散布しましょう。

<まとめ>

・サシバ工の活動時期は夏だけでなく、涼しくなった晩秋まで続く！

・引き続きサシバ工対策が必要

何よりも効果的なのは、糞や飼料の除去

IGR 薬剤を散布する場合は涼しい時期を狙って散布